

5年生の『覚悟』と6年生の『姿』

本日で2月が終了します。2月が逃げていきました。

残すところ、卒業式・修了式まで23日（登校日は17日）です。2月同様、3月もあっという間に去っていくことでしょう。

残りの期間、5年生・6年生は、何をやって（または何をやり切って）、どんな心持ちで修了式・卒業式を迎えるのでしょうか？

5年生は、来年度、最上級生、『日吉小の顔』になるにあたって、何を強化し、何をやり切るかということを確認にし、正しく今、取り組んでいるということを担任の先生から聞きました。これまでは、高学年という括りはありますが、いざという時は6年生という後ろ盾がありました。しかし、来年度からはその役割を担わなければなりません。「自分なりに頑張っている」という認識だけでは通用しないことも多々出てきます。

そこで、6年生が全校の鏡であり、日吉小学校の顔となるということへの『覚悟』をもってほしいと思います。『覚悟』とは、困難なこと、厳しいことを予想して、それを受け止める心構えをすることです。それは、一朝一夕で身に付くものではありません。また、一人では乗り越えられないことも出てくるでしょう。だからこそ、日頃から「最上級生としての言動として相応しいか」という視点を持ち、率先した姿を示していくことを期待します。また、一人では乗り越えられないことも、周りの仲間と一緒にあったらできることも増えてきます。そのために、12人の関係性を強固にしていくことです。6年生の全校リーダーとしての経験は、中学校に入学してからも必ず生きて働きます。

また、6年生も卒業するにあたって、やることの具体を担任の先生から聞きました。卒業に向けた具体的な活動がたくさんありますが、『6年生であり卒業生でもある』という立場から、下級生に対して、やるべきこと・伝えるべきことを確実に行ってほしいと思います。特に伝えるべきことについては、言葉で伝えるだけでなく、姿で示してほしいのです。

コロナ禍以前の中学校の卒業式に向けた3年学年練習の場では、いつも後輩たちに後姿で示すことを語ってきました。証書授与、答辞、そして合唱の時にしか後輩と対面する機会はありません。後は後輩たちにとっては後姿です。しかし、その後姿から感じ取れることはたくさんあります。『自信』『誇り』『希望』『決意』・・・。

『先駆け挨拶』で示した姿のように、伝えたいことの具体を姿で示すことができたら、6年生が卒業後も下級生はイメージしやすくなります。できる範囲で、できることを姿で・・・期待しています。